



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



歯科臨床研究における課題

歯科病院長 榎 宏太郎

ご存知のように、我が国でも、歯科医療の質と安全を守り、標準的治療を普及させることを目的として、平成20年より各専門学会を中心とした診療ガイドラインの整備が続けられております。この診療ガイドラインは、臨床研究におけるエビデンスの集約を中核としておりますが、その策定において、委員らが最も苦勞するのが、エビデンスレベルの分類から推奨度決定の過程です。Clinical Question に対する答えが、現場の実情とそぐわない、低い推奨度となってしまう場合も多々あり、策定論理に理解の薄い臨床医から叱責を頂戴する場合があります。



しかし、このような「個々の臨床経験と科学的評価の乖離」には、何かが隠されているはずで、我々は、この点をもっと臨床研究における問題点として、深く考える必要があるのではないのでしょうか。

この臨床上の経験とエビデンスレベルに差異が生じてしまう原因としては、歯科診療の特徴から、①治療内容と効果に関する研究において Randomized Controlled Trial (RCT) が困難な場合が多い、②口腔機能や治療内容を数値化しにくい、などが挙げられます。そして、この①については、研究グループや学会が共同で計画的な調査を進めることによって将来には解決可能と思われ、しかし、②については、今後の歯科医学全体の大きな課題と捉えるべきです。例えば、口腔・顎顔面領域は様々な機能を有しておりますが、現状では、咀嚼や嚥下時に働く『力』に関して、大きさも方向も、作用時間でさえも、日常生活の中で計測することは不可能です。『力』や『運動』の他にも、局所的な『感覚』や『代謝』などの定量評価も歯科の診断には欠けてしまっております。したがって、歯科における診断機器開発の遅れ、つまりは絶対的な生体情報量の不足が、様々な研究の質に影響を及ぼしていると考えられます。

一方、社会では、日々、新しい技術が創出されていきます。このような他分野における技術の吸収こそが、今後の歯科臨床研究における重要な鍵となるのではないのでしょうか。

臨床歯科医学が失った時間を取り戻すのは容易ではありません。また、四年間にまとまった成果を求められる大学院研究テーマとしては不適當かもしれません。

しかし、将来を担う若き研究者諸氏は、安易な道に走らず、是非とも、この大きな課題に向かって果敢に挑戦されるよう、心よりお願い申し上げます。

CBTワークショップが開催されました

共用試験CBT実施責任者 北川 昇

快晴の5月13日(土)、旗の台1号館5階会議室とPBLルームにおいて、平成29年度共用試験CBTワークショップが実施されました。医療系大学間共用試験評価機構から若森 実先生(東北大学)、大槻昌幸先生(東京医科歯科大学)をタスクフォースにお招きし、美島教育委員長の挨拶の後、ワークショップは開始されました。今回の参加者は27名でした。午前中は、CBT問題作問時の注意事項と良問・悪問について、さらには本学の不採択問題についてもレクチャーがありました。午後は、スモールグループに分かれて事前に作成してきた各自の問題のブラッシュアップを行い、その成果を発表しました。



今回は、本学の採択率が非常に悪かった反省から、各グループとも大変活発な討議が行われ、充実したワークショップとなりました。特に連問をターゲットにしたブラッシュアップでは、昭和大学の強みであるオール昭和(基礎と臨床の連携)を再認識することができました。

最後に参加者全員に修了証が授与され、関係者としては次年度の採択率向上のためのさらなる努力を心に誓い、ワークショップは無事修了しました。



南カリフォルニア大学での選択実習に参加しました

歯学部6年 小林 理香

ロサンゼルス中心部という素晴らしい立地を誇る南カリフォルニア大学(USC)にて2週間の実習を行いました。USCのドクター達は皆とても陽気で気さくで患者もまた、日本の学生と伝えと色々質問してくれるなど、外来の見学と同時に多くのコミュニケーションを取ることができました。英語のみならずスペイン語も飛び交い、多国籍ならではの環境で刺激を受ける毎日でした。臨床での手技は基本的に日本とほぼ変わりませんが、実際に海外へ行くことで、保険制度の違いによる治療費の高さ・アメリカでは歯並びが悪いと貧乏と思われるほどの歯への意識の高さ・日本の治療の繊細さなどアメリカと日本それぞれの優れている点を認識できました。

現場での早すぎる医療英語についていけなかったり、意見を求められて瞬時に英語で自分の本当に言いたいニュアンスを伝えられなかったりなど自身の未熟さを思い知らされることも多かったです。楽しかった・面白かっただけではなく最高の人生経験をできる機会を与えていただきました。

この研修を実現するにあたりご尽力いただきました先生方、国際交流センターの方々へ深く感謝申し上げます。



南カリフォルニア大学での選択実習に参加しました

歯学部6年 下平 剛



ロサンゼルスダウンタウンの少し南に、レンガ造りの建物が多く立ち並ぶ、まるで一つの街のような広大なキャンパスがあります。私たちはその Herman Ostrom School of Dentistry の Oral Facial Pain and Oral Medicine Clinic という顎関節症科と歯周病科が統合されたような、日本にはない新しい診療科の見学に行かせて頂きました。わずか2週間の研修でしたが、普段のレポートなら長いと思うであろう”500字”に物足りなさを感じるほど、濃密で有意義な時間でした。

私は、留学のメリットって何なのだろう、臨床は日本とどちらの方が良いのだろうといった一丁前な理由で海外実習を志望しましたが、終わってみればそんなことはどうでもよかったのかなという気がしました。海外に行って最も価値があったのは、欧米の文化に触れることができたことだと思います。病院の中ではもちろん、診療が大体16時前後には終わるので、毎日のように車で出掛け、いろいろな場所と様々な人からアメリカの文化を学ぶことができました。それと同時に日本の文化、そして日本の歯科に改めて誇りを感じることができました。結局日本とアメリカのどちらの方が良い悪いとかではなく、あったのは文化の違いであり、どちらにも魅力的な面がたくさんあるのだなと思いました。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 6月3日(土) : 昭和大学白菊の集い
- 6月4日(日) : 富士吉田オープンキャンパス
- 6月10日(土) : 父兄会総会
- 6月24日(土) : 第338回昭和大学学士会例会
- 6月24日(土)~25日(日) 富士吉田校舎寮祭
- 7月3日(月) : 夏季スポーツ大会壮行会
- 7月23日(日) : 歯学部オープンキャンパス

琉球大学での選択実習に参加しました

歯学部6年 小川 明宏

私は4月4日から14日までの10日間、琉球大学医学部付属病院の歯科口腔外科へ実習に行きました。

この実習で、私は口腔癌や末期癌・口唇口蓋裂などの疾患や顎部郭清や顎骨再建などの手術見学など、5年次病院実習ではあまり触れなかった症例を多く目にすることができました。

実習内容は、外来や手術・病棟回診や口腔ケア回診の見学を主に行いました。また先生方による講義もいくつか行われましたが、教授による口唇形成術の設計線の描き方の講義が最も興味深かったです。

外来では拔牙や粘液嚢胞摘出、生検などの外科処置を主にアシストにつきました。曜日ごとに専門外来が設けられており、顎変形症や顎関節症、口腔腫瘍の診察を見学しました。そこで口腔癌の末期癌患者さんの現状を目にし、QOLの維持の難しさと緩和ケアの重要性を改めて肌身で感じることができました。

手術は毎週水曜と金曜に行われ、4日間で口唇形成術を2件と口蓋形成術、左側上顎骨部分切除、顎部郭清を2件、左側頬粘膜腫瘍切除、顎骨再建を見学しました。病棟に入院されている患者さんには顎骨切除後に再建までしている方が多い印象を持ちました。口唇口蓋裂の患児は5名程入院しており、ほぼ毎週オペが行われていました。

放課後や土日に沖縄という環境を楽しむことができたこともとても良かったです。お世話になった先生方に改めてお礼を申し上げます。



アメリカ解剖学会で発表しました

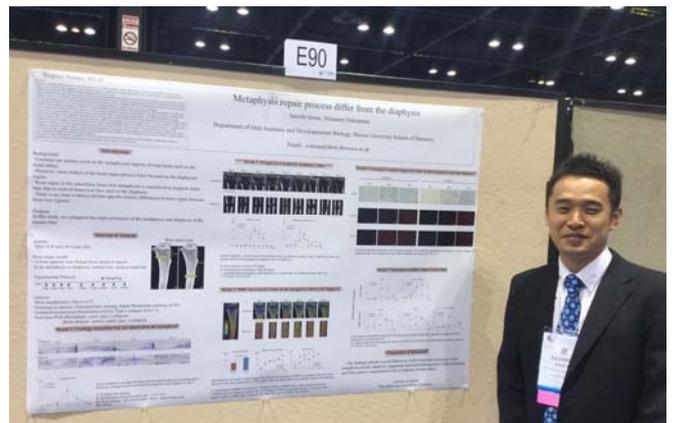
大学院4年(口腔解剖学専攻) 井上 知

4月22日から26日までアメリカのシカゴで開催された Experimental Biology 2017に参加してきました。本学会はアメリカの6つの学会(解剖学会, 生理学会, 生化学会, 病理学会, 栄養学会, 薬理学会)が一同に会し、参加者が1万人を超える大規模な合同学会です。

私は今回、長骨幹端における骨修復過程について、ポスター発表をしてきました。海外の研究者とディス

カッションするなかで、骨折に対する考え方や治療法が国によって異なることを知ることができ、貴重なアイデアや意見もいただくことができました。分野を超えた学会が集まっていたため、国内ではあまり触れることのできない様々な分野の研究成果をみることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。今回、初めて国際学会に参加して、研究成果を国外の人に正確に伝えるためには、英語がとても重要であるということを再認識することができました。

学会中は天候にも恵まれて、シカゴの美しい街並みを楽しむことができました。このような貴重な機会を与えて下さった中村教授をはじめ、研究をサポートしていただいた、すべての方に深く感謝いたします。



平成29年度科学研究費補助金交付内定状況

研究活動委員会 上條竜太郎

去る4月1日、文部科学省と日本学術振興会は、平成29年度科学研究費補助金の交付内定を公表しました。

歯学部全体の交付内定状況(5月22日把握分、研究活動スタート支援ならびに挑戦的萌芽研究新規分を除く)は下表の通りで、平成28年度と比較して交付内定件数は新規で10件、継続で4件増加し、交付内定金額は約3000万増加しました。交付内定金額の総額は昨年同様、1億円を超えました。なお、ご不明な点は、歯学部研究活動委員会、財務部研究支援課にお問い合わせください。

	平成28年度			平成29年度		
	新規	継続	内定金額	新規	継続	内定金額
基盤研究A	0	0	0	0	0	0
基盤研究B	0	6	15,400,000	3	2	23,300,000
基盤研究C	13	25	44,400,000	14	31	48,500,000
若手研究A				1	0	6,900,000
若手研究B	11	15	31,600,000	24	15	50,300,000
研究活動スタート支援	5	4	10,000,000	申請中	5	5,500,000
挑戦的萌芽研究	4	6	12,100,000	審査中	7	6,700,000
新学術領域研究(研究領域提案型)				1	0	2,400,000
合計	33	56	113,500,000	43	60	143,600,000

日本デジタル歯科学会で最優秀ポスター発表賞を受賞しました

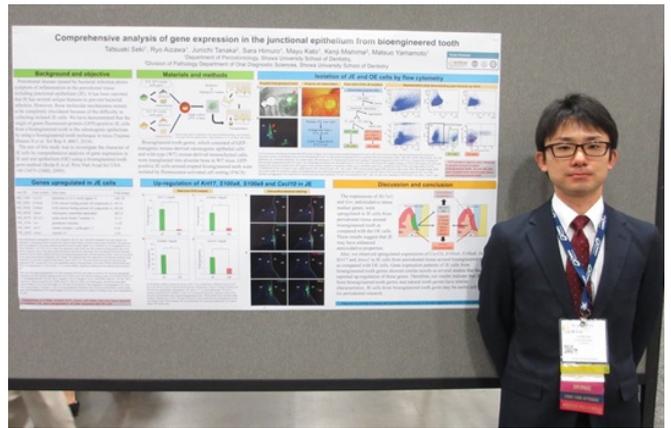
大学院2年(歯科補綴学専攻) 岩内洋太郎

4月22日、23日に鶴見大学記念館で開催された日本デジタル歯科学会第8回学術大会にて「口腔内スキャナーによる咬合採得に対する咬みしめ強度の影響」という演題で発表させて頂き、最優秀ポスター賞を受賞しました。自身初めてのポスター発表にあたり、研究チームの先生方は勿論、チーム以外の先輩や同期にも協力を頂き、万全の準備をもって臨む事ができました。参加者に分かりやすく伝える難しさや、自分の研究内容の問題点を多々発見することができた学会発表でした。その一方で他大学の先生方とディスカッションする中で、自分は、恵まれた環境で日々、研究と臨床をさせて頂いているのだと改めて実感しました。この受賞は、宮崎隆学部長と馬場一美教授が、日本の歯科界において、いち早くデジタルデンティストリーに着目し、研鑽を積み重ねてきた結果であることを実感し、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後にポスター発表にあたり、お忙しい中、経験が浅く未熟な私を指導して下さった馬場教授、高場先生、田中先生をはじめとするデジタルチームの先生方に心より御礼申し上げます。今回の経験を糧に、更に知識や技術を身につけて微力ながら昭和大学歯学部の研究、臨床に貢献し、有意義な大学院生活にしていきたいと思っております。

皮細胞の解析」という演題で発表させて頂き、優秀賞を受賞することができました。このような身に余る評価を頂いたことを大変恐縮しております。今回が初めての学会発表で、国際学会のため英語でのディスカッションは大変緊張致しましたが、とても貴重な経験をさせて頂きました。

今回の発表に際して、これまで指導下さった歯周病学講座の山本松男教授、相澤怜先生ならびに口腔病理学講座の美島健二教授、田中準一先生をはじめ、多くのご指導いただきました先生方にこの場をお借りして心より御礼を申し上げます。まだまだ課題が多く残っている研究であるため、今後も引き続き精進して参ります。



採用

広報委員長 中村 雅典

伊澤 光 (口腔衛生学部門 講師)
池田 美菜子(口腔生理学講座 助教)

編集後記

口腔衛生学部門 内海 明美

東京では、昨年よりも2日早く真夏日が到来し、5月にはあまりない光化学スモッグ注意報も発令されました。梅雨入り前に突然の豪雨に見舞われるなど、さわやかな五月晴れの季節はどこへ行ってしまったのでしょうか。どうぞ、十分な熱中症対策をお願いいたします。

お忙しい中、ご寄稿頂きました皆様、ありがとうございました。



AAP-JSP/JACP サンディエゴ大会にて優秀賞を受賞しました

大学院4年(歯周病学専攻) 関 辰明

平成28年9月10日から13日にアメリカ サンディエゴにて開催されました、第102回アメリカ歯周病学会共催日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会2016年大会(AAP-JSP/JACP サンディエゴ大会)に参加いたしました。本大会における JSP/JACP ポスターセッションにて「再構成歯胚技術を用いた歯肉接合上